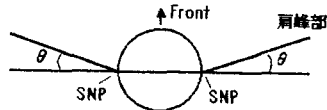


序論 これまで被服製作の指導方法の改善および使用機材のコンピュータ化に関して、タイトスカートの製作を通して検討を行ってきた¹⁾。i) 仮縫い・補正を避けること、ii) 体型・サイズのデータベース化を中心としてきたが、今回は上衣の肩部について行った。

方法 肩峰部分にしわが生じる場合の補正方法として；① 原型の肩先から3～3.5cm下がった袖ぐり曲線上から SNP に向かって切り込みを入れ、過不足分を開いたり重ねたりする方法、② 肩線の前または後身頃の部分で余った側を切り取り、不足側に貼る方法などが知られている。しかしながら、これらの方法の欠点として、仮縫い・試着後の補正、切り込みから離れた部分での型紙の一部浮上、基準線の移動、縫い代の過不足、袖ぐりや袖山曲線の引き直しなどがあげられる。このような問題点の解決方法の一部はすでに知られているが、定量的な補正は示されていない²⁾。

これらを型紙作成の前までに解消するため、肩部の前または後方への突出量から肩線の移動量を推定した。さらに、左右の SNP を通る直線を基準線とし、頭上からみて肩線が前方に何度回転しているかを測定し、補正量を定量的に設定することを試みた。

結果 従来までの型紙作成→布地裁断→仮縫い→試着→補正→本縫いまでのプロセスが逓減され、指導が容易となり、製作時間が短縮された。また、前回までと同様に問題点と解決方法のデータベース化とコンピュータグラフィック化を試みた。



1) 高橋、田頭；家政学会 第46回大会要旨集、p. . 2) 土屋；レディ・ティンクシリーズ No.513、ブティック社。